

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600045		
法人名	医療法人社団悠久会		
事業所名	ハピネス岐南グループホーム (ファースト)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町薬師寺3丁目17-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2190600045-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2190600045-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、医療との連携も密接で定期的な主治医の往診、随時の相談で手厚い医療が受けられている。また、胃ろう管理や喀痰吸引となった方もグループホームで安心して過ごす事ができるように、口腔内の喀たん吸引、鼻腔内喀たん吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の研修を受けた介護職員の体制を整えています。ハード面では、死角となる廊下をなくし、全方位から利用者さんを見渡せる設計による工夫や入居者さんが車いす生活になっても安心して入浴できるように機械浴も完備しております。町内会、老人クラブ、民生委員の様々な方々と連携することで地域に浸透し入居者一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら尊厳を大切にされた生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所がある地域は、自治体を挙げて、高齢者に優しい福祉の街作りに努めている。異業種の連携により、地域住民の協力も得やすく、利用者が住み慣れた地域で、安心して過ごすことができている。母体の医療法人と馴染みであった利用者も多く、地元の行事参加を含めて、外出の機会を多く作り、利用者のこれまでの生活を継続できるよう支援している。事業所で開く喫茶「もちのきカフェ」は、ボランティアや学生の参加も多く、認知症や福祉に対する理解を深めながら、次世代育成の一端を担っている。職員は、親を入居させたいと思えるホーム作りを目指して、日々研鑽しながら専門的な研修を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(ファースト)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの意義や役割を日々考え、毎日の朝の申し送りで唱和し、尊厳について話し合う機会があり、理念、基本方針を念頭におきながらケアの実践に繋げている	法人の基本理念に加え、基本方針、ホーム理念を掲げ、毎朝、唱和している。管理者と職員は常に理念を意識し、日々のケアを振り返り、共有しながら実践につなげている。また、ユニットごとに具体的な目標を掲げ、支援に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合に参加し地域との関わりをもち、お祭りやサロン、公園清掃など積極的に参加している。又施設内での行事に地域の方を招き入れ参加いただいていることで閉ざされた空間から外への交わりを保って生活している。	地域の行事や自治会の会合などに、積極的に参加し、事業所行事には、地域の人を招待している。行事や風習について、近隣に尋ねながら、地域の一員として交流を重ねながら、理解と協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに積極的に参加したり地域の店や喫茶店などへ外出することで認知症の方への理解を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催日は年度を通してお伝えし、会議案内で議題に合わせた専門職に参加して頂けており、それぞれの視点から話が聞ける場となっている。	隔月に運営推進会議を開き、自治会や行政等、また、家族会代表や利用者も参加し、意見交換を行っている。事業所の活動報告やイベント後の反省点などを話し合い、助言や提案を受け、それらを運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームを地域の方に知って頂く為に介護フェアでブースを開く協力いただいた。運営を行う中で疑問・質問などは、その都度連絡しアドバイスをいただいている。	行政とは、運営推進会議の中でも、介護保険の動向、地域高齢者の現状について、説明を受けている。また、会議のテーマに沿った部署からの参加があり、協力関係を築いている。今年は、水害対策について行政より説明を受け、意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会での話し合いを中心に、法人内委員会、運営推進会議での報告を行い、身体拘束に対して事業所の取り組みを伝えている。また拘束ゼロをめざし、身体だけでなく言葉による拘束にも留意するように接遇委員会でも話し合っている。	身体拘束ゼロを目指し、委員会の設置、運営推進会議での報告、職員間での確認等、様々な場で話し合っている。言葉による拘束を含めて、利用者の安全の為に、車椅子のクッションベルトを使用した場合、拘束にあたらないかなど、職員間でも話し合いながら、最善のケアを選択するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で利用者様に対する言葉遣いや介助の仕方など職員同士で同じ意識を持ち注意し合っている。又研修や会議の時に虐待について話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様、家族様等に周知を図っている。利用者様で活用されている方もおられていた。職員研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金の改定等、必要に応じ説明確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事、運営推進会議などご家族様との会話の中から意見や要望などお聞きしている。口頭にてためらう家族様等には「ご意見箱」を設置している。面会時などに介護記録に目を問うして頂き日々の様子を知らせている。	利用者の自宅が近い場合は、「便り」を持参し、利用者の様子を伝えながら、家族の意見や要望を聞き、それらを運営に活かしている。また、入居前の利用者の暮らしぶりも聞き、本人の満足につながるケアを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中でコミュニケーションを取ったり月一回の会議の際に職員の意見を聞き、利用者様の満足につながるよう運営改善に努めている。	管理者も現場に入り、職員の意見や要望を聞いている。出来ることは速やかに改善し、ケア方法の疑問や勤務時間の調整等は、事業所として検討し、課題として取り上げ話し合いながら、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が日々の業務を行う上で目標を掲げ向上心を持って働いている。また人事考課制度があり自己を見つめる機会、考課者は職員の日頃の努力や実績を認めると共に向上心を持って働ける職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内や外部での研修を行い、各自で技術を磨いている、又研修での内容を他職員にも伝え皆で質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム事業所と協力し介護フェアの参加、互いに協力し合い意見交換し質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様・ご家族様と面談をし要望などをお聴きし安心して入居して頂けるように十分に耳を傾ける努力しサービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご本人やご家族様と十分に話し合い、意見や要望を受け止めながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の実情や意見、要望を元に包括支援センターや他事業所と連携し適切なサービスを行えるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活と同じような環境で安心して生活して頂けるようにし助けが必要な時々により添えるよう努めている。又職員が知らない事を教えて下さったり、人生の先輩として良い関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便り、掲示板などで行事のお知らせをし、積極的に参加して頂いている、又職員の方から積極的にご家族様に日々の様子を話すなど話しやすい雰囲気を作る努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師さんの散髪、地域サロンの参加、行き付けだった喫茶店へ出かけるなど、外出先で偶然出会う友達との会話が出るようにしている。	親戚や知人の訪問が多く、馴染みの関係が継続できている。ほとんどの利用者が地元住民であるため、訪問者が別の利用者の顔見知りである場合も多い。訪問者と利用者が、ゆっくり過ごせる環境を提供している。事業所の便りを、利用者と一緒に自宅まで持っていくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	目の見えない方や耳の遠い方へは間に入って会話の懸け橋になっている。利用者様同士仲の良い方がいつも近くにいる状況を作ることによって安心して過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様のそれまでのご様子を事細かに伝え次の所でも安心して過ごして頂けるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメントはもちろん、日々のコミュニケーションの中で会話や表情、特に言葉が出ない部分をきちんと読み取り一人ひとりの希望に添ったサービスを行うように努めている。	利用者の表情や会話などから、思いや意向を把握している。時間をかけてゆっくり話すことで、思いがけない事を知ることもある。それらの知り得た情報は、職員間で共有し、利用者一人ひとりの希望に沿ったケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで十分に生活状況を把握し出来る限り今までの暮らしと近い環境で生活できるように努めている。日々のコミュニケーションの中から昔の仕事や趣味を聞き出しレクリエーションにもつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況を知った上で安心して過ごして頂けるよう日々のコミュニケーションの中から見つけ出し出来る事、出来ない事などを把握し的確に支援できるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人参加のケアカンファレンスを基にご家族様とのコミュニケーションや月一回の会議の中でケアプランを見直しその時その時に応じた支援が出来るように努めている。	介護計画は、利用者も参加するカンファレンスを基に作成している。日々の介護記録、利用者の状態、家族の意向等を参考にし、関係者が話し合いながら、全員が合意した上での介護計画としている。また、利用者の状態に応じて、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入する中で誰が読んでも(他職員や家族様)その様子が浮かぶように具体的に記入するようにしている。又朝の申し送りや月1回の会議時に情報を共有し日々のケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護のマンネリ化を防ぐ為、常に利用者様の変化に気付けるように休日中(自分)の記録にも目を通したり日々情報共有しその都度ケアの仕方を変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンの参加、包括支援センター・民生委員様の情報提供を頂きながら、生活の場所をサロン開催の場所として提供、地域の方を招き入れ馴染みの方と交流もでき楽しく生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を継続できるように支援している。緊急時には主治医、看護師との連携を取りその都度、適切な対応をしている。往診結果や緊急時の様子など家族様には臨機応変に伝えている。	入居時に、かかりつけ医について説明し、利用者が選択している。ほぼ全員が協力医をかかりつけ医とし、定期的に往診と訪問看護を受けている。また、母体が医療法人である為、24時間の医療連携により、家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックや日々の様子、変化などを細かく伝え定期往診時に報告相談している。異常がある際はその都度報告し指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際し本人様や家族様が安心して治療・ケア等受けられる様に提携医療機関に情報を伝えている。退院時には病院関係者や本人様・家族様と情報交換しケアの仕方を改めて相談しながら安心して頂けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方や看取りの方へのケアの研修を受けている。また主治医から指示を受け、ご本人や家族様の思いに沿ったケアを心がけている。また喀たん吸引研修受講済職員が6名いる。	契約時に、重度化や終末期について、本人・家族に説明し、同意を得ている。状態に変化があった場合、早い段階から関係者が十分に話し合い、主治医が家族に説明をしている。終末期のあり方は、本人と家族の要望に応え、協力を得ながら看取りを行っている。職員は重度化や終末期のケアの研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃から身体状況を把握し変化に素早く気づけるように努めている。又主治医から適切な指示をもらい応急手当をしている。消防署の協力を得て救命救急、応急処置の訓練を受ける事で技術習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は夜間想定)の避難訓練、消火訓練、通報訓練、水害訓練、地震災害訓練を実施している。又地域の方は要介護者が多数いる事を把握して頂けており協力が得られる体制がある。地域の防災訓練に参加している。	防災訓練は、水害・地震対策を含めて定期的に取り組んでいる。行政や地域と共に取り組み、研修会も行っている。訓練後には、運営推進会議で報告し、意見や助言を得ている。地域の防災訓練にも参加し、相互に協力体制を構築している。	電気、水道、道路、通信などのライフラインが途絶えた時の対策について、地域全体で話し合う計画を検討中である。地域と共に、具体化されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会が隔月であり日々の介護の在り方(言葉使いや服装など)を考え皆が統一した介護が出来るように努めている。又職員同士が注意し合い入浴や排泄などのプライバシーの保護に努めている。	管理者と職員は、常に、利用者の尊厳を大切に した支援を心がけ、接遇委員会、「心のケア研 修会」で話し合い、実践している。また、職員 は、ケア場面ごとに配慮をしながら、互いに目配 り、気配りに努め、利用者の誇りやプライバシー を損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からお本人の 思いをくみ取り、選択できる場面や意欲が上 がるような言葉かけやレクリエーションから 好きな事を見つけられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	一人ひとりも思いを大切にし、食事や入浴時 などの場面でその人らしい暮らし、個々の ペースで日々を過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	季節に合った好みの服を着て頂き、外出時 などは化粧をしたりスカーフを巻いたり、普段 とは少し違うおしゃれを楽しんで頂けるよう努 めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会などいつもとは違った特別メ ニューや季節の食べ物、嗜好に合わせた品 を提供、外出先でご本人に食べたい品を食 べて頂くなど、外出や食事が楽しみになれる ように努めている。	定期的に利用者の希望メニューを聞き、リクエ ストに応えた食事を提供している。近隣からの 差し入れも多く、食材として利用している。食 べことは健康の源であるとし、行事の際には、外 食や特別食にするなど、利用者が食事を楽しめ るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	食事の際はもちろん、10時や3時、夜間など 定期的に水分補給を行い脱水にならないよ う努めている。(特に夏冬)水分をあまり摂ら れない方には個別で声をかけ一日の中で細 かく水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、必要に応じて 口腔ケアをしている。又必要に応じ歯科受診 も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを理解し本人の意思を尊重しながらお手伝いしている。紙おむつからリハビリパンツへ肌の負担が軽減できるよう、又自立への支援を行っている。また排泄に失敗した場合でもさりげない介助で羞恥心に配慮している。	トイレでの排泄が基本となるよう、声掛けとトイレ誘導を行っている。入居時は、おむつを使用していた人が、紙パンツからパッドへと移行できた事例もある。各居室には、トイレが設置されており、利用者の安心感にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをしその人その人の便のリズムを把握し、好まれる乳製品のや食物繊維の多い食べ物のとれるようにしている。自然排便が出来るように食事や運動、水分補給など予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週に2～3回、回数や時間は個々の希望に応じている。体調に合わせてシャワー浴、特浴、入浴が難しい時は清拭を行っている。入浴があまり好まれない方は職員のお誘いの工夫で入浴を楽しんで頂いている。	日曜日を除き、いつでも入浴できる体制であり、利用者の希望に応じている。個浴でゆったり入浴を楽しんだり、車いす利用者は、リフト付きチェアで安心・安全に入浴している。入浴時間は、利用者と職員のコミュニケーションの場でもあり、個々の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴でも支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠れるように日中の運動や過ごし方を考え午睡は30分から1時間程度を目安とし生活のリズムを整えている。また室温や明るさなどにも配慮注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人の服薬マニュアルがあり目的や副作用を理解した上で服用して頂いている。飲み忘れ、誤薬が無いよう職員2名でチェックし、吐き出しや飲み込み損じが無いよう確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、フロアーのモップ掛けなどその方の出来る役割があり自身が必要な存在であるという事を認識して頂いており、楽しみながら行えるようサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	安全安心な外出をするためボランティア職員さんや家族様の協力で長時間の外出対応可能となっている。外出の機会を多く作り入居者一人ひとりの希望に添えるように努力支援している。	天候と利用者の健康状態に合わせて、近隣の散歩や外気浴をしている。また、出来る限り、外出の機会を多く設けられるよう、ボランティアの協力を得ながら、年間行事計画を立てている。今年は少人数に分けて、岐阜公園の菊人形を見学に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で品物の購入の際にレジでの清算を行って頂く機会もあり、お金の大切さを理解しておられる、利用者様によっては能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションの中で家族様宛の年賀状や暑中お見舞いハガキを送り日頃の暮らしを伝えている、又電話は希望に応じサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ家具の配置を工夫したり、居心地の良い空間作りに努め、生け花や掲示物するなど落ち着いた環境を整え、車いすの方でも自由に動きやすく安心して移動が出来るようになっている。	玄関は段差もなく、広いスペースがあり、自宅のような雰囲気を出している。共用空間は広く、車椅子の利用者が安心して往来ができる。リビングには大型のテレビが置かれ、ゆったりとソファでくつろぐことができる。壁に利用者の作品を掲示し、健康面に配慮した空調設備が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心して思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。共用スペースは自由な場所となっており、仲の良い利用者同士がリラックスできる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や枕、洋服、テレビ、ラジオなど使い慣れたものや好みの物を置き、ベッドの向きはその方の動線や下肢の能力などを考え配置し本人が過ごしやすい環境作り、手作りの作品や家族の写真など飾り居心地の良い居室作りをしている。	居室には、トイレ、洗面台、ベッドが設置されている。利用者は気兼ねなく安心して、洗面、トイレを使用することができ、職員は見守りに対応している。寝具、家具を持ち込み利用者好みに配置し家族の写真、思い出の作品を掲示し、居心地よく過ごす工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や危険防止に努め、杖や押し車、車椅子の福祉用具など一人ひとりの能力に合ったものを使用し行動の制限をされないよう環境を整え生活に不安が無いように工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600045		
法人名	医療法人社団悠久会		
事業所名	ハピネス岐南グループホーム (セカンド)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町薬師寺3丁目17-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(セカンド)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時理念読み上げをし職員が共有できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災訓練には利用者様と一緒に職員も参加し地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催の認知症カフェではハピネス岐南セカンドフロアの生活の場所を提供し地域の方々に足を運んで頂き地域の中の施設として認知症についての知識を広げてもらうよう話をしたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、自治会、民生委員、老人クラブ、家族様、利用者様など避難訓練の様子を見て頂き意見交換アドバイスを頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことやわからない事があった場合は行政の相談し対応している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員全員で身体拘束について話し合い取り組んでいる、また法人設置の接遇委員会、リスク委員会があり学習会を開催している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の利用者様に対しての言葉使い、態度に気をくばりその都度見直しを心がけている		

岐阜県 ハピネス岐南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて職員が学んできたことなどを報告し研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金改定等、入所時の契約に限らず必要に応じ説明確認をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に面会時には話をする時間を多くとるようにしている 玄関には「ご意見箱」を設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い意見、提案を聞き話し合う事で繁栄できている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会の報告、実践を心がけ有給、希望休暇取得などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への個別面談を定期的に行っている 外部研修への参加も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護フェアにて複数事業所との連帯事業に取り組み、同業事業所とのネットワークができ質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを活用し困っている事、不安や問題を明確にし本人との信頼関係を築くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にはご家族様と時間をかけ要望など細かく話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用しているサービス内容を詳しく確認し適切なサービスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で過ごされてるのと同様に利用者と一緒に話したり教えていただきながら穏やかに生活していただきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に利用者様の生活などを報告し行事に参加して頂けるようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もちの木カフェではボランティアの方々と馴染みの関係が出来ている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出やレクリエーションを通してお互いの関係が良くなるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた方の面会へ行き談話をし様子を伺ったり、もちの木カフェへ気軽に着て下さる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話などから利用者様の希望要望を汲み取っている。困難な場合は生活歴はご家族様の聞き取りから把握している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、アセスメントシートを活用しながらサービス提供に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りを行い利用者の個々の状態を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では利用者の健康状態を考慮し意見気づきを話し合い作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の過ごし方や状態変化の記録を個別に記入し見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があればその都度主治医に相談し利用者様の状態に合わせ臨機応変に取り組んでいる。		

岐阜県 ハピネス岐南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊り歌のボランティアなど利用者の暮らしが楽しくなるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で月2回の定期往診を実施 緊急時は主治医、看護師との連携を図っている。また往診結果は家族様に報告している。協力医への受診援助を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良、状態変化に常に気を配り異常や変化があった時は報告し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はアセスメントや状況を報告し病院関係者との情報交換に努めている 常に連絡を取り関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期については主治医との話し合いのもと、なるべく早い段階で家族様に報告し思いをお聴きし対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修を受け定期的な勉強会をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練、通報訓練、水害訓練を実施している。 地域の防災訓練に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重するように配慮している 言葉をかけると時は視線を合わせ本人の話に耳を傾ける		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	頑固な方は表情などを読み取り自己決定できるよう思いを引き出し支援していく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし利用者様の希望に沿ってケアできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は職員と共に好みの洋服を選び着て頂き、馴染みの美容院の出張利用にて会話も弾み喜ばれながらヘアークットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に会話をしながら焼き物などを手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し利用者様の食事摂取、水分摂取を把握している 水分は一日1,300ml摂って頂くよ心掛けている 少ない時は好きなものを摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は利用者様の状態に合わせて声掛け介助し口腔ケアを行っている。		



岐阜県 ハピネス岐南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は利用者様の状態に合わせて声掛けを行うことで排泄量パターンの把握に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、食物繊維の多い物や水分を多く摂って頂きながら、体操運動への参加を働きかけ便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて順番や曜日を変更することもある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境で良眠して頂くようにしている。また休息は利用者様の個々の状況に合わせて対応支援している。 夜間は音、光などに注意し安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬情報があり職員が目的、副作用を知ることが出来る		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳体操、レクリエーション、リハビリ体操など利用者様の能力と好みに合ったものをお勧めし支援している 毎日の家事の手伝いの洗濯乾や掃除で役割を感じて頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、その都度季節に合った外出により気分転換できている。また外出を楽しみにされている。		

岐阜県 ハピネス岐南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は利用者様がお金を支払えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど利用者様にに応じて支援している 住所は思い出しながらかけるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは季節感のある貼り絵を利用者様と一緒に作り飾ってある		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様はソファではテレビを観られたり談話されたりとゆったり過ごされて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを置いていただき利用者様が安心して過ごせるよう支援している 家族様との写真を飾ってみえる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じて安全な環境で生活が送れるよう支援をしている のれんの柄でご自身の部屋をわかりやすくしている		